

佳作

せんそうのお話を聞いて

茨城県 結城市立結城小学校二年 別井健

なつ休みに、きんじよの九十さいになるおばあちゃんが、せんそうのお話をしてくれました。せんそう中には、ばくだんが毎日毎日おちてきて、たくさんのお友だちや知り合いの人がしんでしまったそうです。でも、おばあちゃんは生きていられました。ぼくだったらばくだんからにげることが出来るだろうか。毎日毎日の、ばくだんにたえられるだろうか。もし、にげられなくてしんでしまったらかなしいと思いました。しぬことをかっこしていた、ぼくとおなじ小学校二年生の男子もいたそうです。

せんそうがおわって中国からおばあちゃんは、ふねにのってゆうきに帰ることになりました。そのときは、にんしんしていたので、なかなかふねにはのせてもらえませんでした。やっとふねにのれても、食べるものがなくて、ふねの中で四人も人がしんでしまったと言っていました。かわいそうだなとぼくは思いました。

にんしんしていたおばあちゃんがリュックの中に大切にもっていた五つのものを教えてくれました。

一つ目は、くつ下の中にかくしたお米で、二つ目は、もう一つのくつ下の中にかくしたおさとうです。ぼくは、食べるものにこまったくらしをしたことがないのでとてもびっくりしました。三つ目は、もうすぐ生まれてくる赤ちゃんのためのうぶぎで、四つ目がおむつだそうです。そして、なによりおどろいたのは、五つ目のもぶくです。せつかく生まれてきても、えいようがとれずに、しんでしまうかもしれない赤ちゃんを、しつかりとほうむってあげたいという話を聞いてなきそつになりました。

ゆうきについて、二日たって、ぶじ男の子が生

まれたと聞いたときは、ほっとしました。ぼくの、お父さんもお母さんもせんそうを知りません。おばあちゃんが、生まれたころにせんそうはおわったので、おばあちゃんもせんそうを知りません。いま、ぼくは、とてもしあわせで、せんそうのことなんて、考えもせずにくらしています。でも、せんそうでたくさんかなしいことがあったことをいっばいべんきょうしたいと思いました。そして、もう二どと、せんそうをおこしてはいけないと思いました。

